



広島中央トピックス



米「恋の予感」ブランド向上へ 元肥一発基本に肥料試験

J A広島中央地域本部や県西部農業技術指導所、東広島市、J A全農ひろしまは、米「恋の予感」のブランド力向上へ、肥料の試験に取り組んでいます。昨年までに効果を立証した基本一発肥料を基本に、肥効期間などを変えた試験で施肥技術を高めます。安定収量の確保と食味を向上する技術を確認し、生産拡大につなげます。

J Aや市などで同市農業振興戦略会議水稲振興検討班を立ち上げ、2021年から試験に取り組んでいます。2021年の試験で、最高分けつ期と幼穂形成期の間の停滞期(ラグ期)の肥効が収量を左右することが分かりました。停滞期前半の肥効充実で、収量の確保や食味向上が期待できるとみえます。

2022年は、停滞期の肥効を高めた配合肥料を試し、本年はさ



▲肥料を田植え機にセットする法人のメンバー

らに詳しく調べます。停滞期初期の最高分けつ期の肥効がピークになるように配合した区画と、慣行の元肥一発肥料の区画とを比較します。

下三永農事組合法人の圃場約28aで5月下旬、田植えと同時に肥料を施しました。高密度播種育苗の「密苗」を使い、省力化、低コスト化にも取り組んでいます。同法人の高尾昭臣組合長は「資材高騰が続くが、収量を上げ、食味も向上することで付加価値が高まればうれしい」と期待します。

「恋の予感」は、日本穀物検定協会の2022年産米の食味ランキングで、県南部の米が2年連続最高ランクの「特A」に選ばれました。同地域本部営業販売課の橋本孟治係長は「技術検証で恋の予感の生産拡大と、3年連続特A受賞を目指したい」と話します。

主要品目生産拡大へ カボチャ栽培適正化

広島中央地域野菜振興協議会は、生産拡大に向け、基盤強化に力を入れています。主要品目のアスパラガス、ナス、ピーマン、白ネギ、カボチャは栽培講習会を開いて技術を統一し、品質向上と収量増を目指します。

6月下旬に園芸センターで開いたカボチャの講習会にはカボチャ部会の部会員21人が参加。J A担当者が、追肥のタイミングや病害虫の発生情報、防除方法、気象予報に基づいた生育管理などを説明。参加者は同センターがマルチ麦で雑草を防除し



▲カボチャの圃場を見学する部会員

ながら栽培しているカボチャの圃場を見学しました。

児童がサツマイモ定植 志和小学校

東広島市立志和小学校1、2年生53人は6月7日、同市の末廣隆憲さんの畑で、サツマイモの定植を体験しました。地域住民やJ A志和アグリセンターが協力。児童は営農指導員に教わりながら「鳴門金時」の苗約150本を植えました。

同アグリセンターの中村司営農指導員は「農業の楽しさを知ってもらうことで将来、農業に就く人が増えればうれしい」と話しました。



▲営農指導員に教わりながらサツマイモの苗を植える児童

なるほどえ~のう! 営農情報

水稲

出穂前後の管理

出穂には、出穂の程度でそれぞれ呼び方があります。

- ① 出穂始(しゅつすいはじめ) 圃場全体の10~20%程度の茎が出穂した時期
- ② 出穂期(しゅつすいき) 圃場全体の40~50%程度の茎が出穂した時期
- ③ 穂ぞろい期(ほぞろいき) 圃場全体の80%以上が出穂した時期

出穂期を把握することで収穫作業日程も予測できるため、穂が見え始めたところまめに圃場を観察し、出穂

時期を確認しましょう。出穂前の稲は穂をつくるために最も水を必要とします。水不足だと幼穂の生育や充実が悪くなるので、水を切らさないよう管理します。特に穂ばらみ期(出穂18日前頃~出穂までの期間。基幹防除1回目の時期)に干害に遭うと、着粒数が少なく減収します。土壌は乾いた状態にせず常に湿らせておきましょう。

出穂期前後の防除

出穂期の病害虫防除は品質や等級、収量に大きく影響します。出穂期前後2回の防除は、最低限必要な基幹防除なので必ず行ないましょう。天候の影響により2回の基幹防除だけでは病害虫の発生が抑えられない場合もあります。その際は補完的に防除し、品質の維持に努めましょう。薬剤散布は、水稲栽培ごよみを参考に行なってください。

カメムシ類

近年、カメムシ類による吸汁被害が全国的に多発しています。カメムシのストロー状の口で吸われた米は「斑点米」という黒い米になり、等級低下の原因となります。カメムシ類は畦畔などにあるイネ科雑草などで増殖し、稲の出穂とともに水田に侵入します。被害を抑えるには薬剤防除の他に、畦畔などの草刈りを徹底しましょう。草刈りはカメムシの餌や住処を奪う目的で、

出穂の10日前頃までに行ないましょう。出穂後の草刈りは水田にカメムシを追い込む可能性があります。防除前の草刈りであれば薬剤による防除が可能です。

出穂期	出穂前防除		出穂後防除	
	薬剤	時期	薬剤	時期
基幹防除	ワイドパンチ豆つぶ 250g/10a 出穂10~20日前(収穫35日前迄)	出穂7~10日後(収穫7日前迄)	スタークル豆つぶ 250g/10a 出穂7~10日後(収穫7日前迄)	出穂7~10日後(収穫7日前迄)
	カッツスター粒剤 3kg/10a 出穂9~15日前(収穫45日前迄)	スタークル粒剤 3kg/10a (収穫7日前迄)	スタークル粒剤 3kg/10a (収穫7日前迄)	スタークル粒剤 3kg/10a (収穫7日前迄)
	ノンプラスレバリダ粉剤DL 3~4kg/10a (収穫14日前迄)	ビームスター粉剤50L 3~4kg/10a (収穫7日前迄)	ビームスター粉剤50L 3~4kg/10a (収穫7日前迄)	ビームスター粉剤50L 3~4kg/10a (収穫7日前迄)
液剤防除	ノンプラスレバリダフロアブル 1000倍液/10a (収穫14日前迄)	ビームエイトスタークルゾル 1000倍液/10a (収穫7日前迄)	ビームエイトスタークルゾル 1000倍液/10a (収穫7日前迄)	ビームエイトスタークルゾル 1000倍液/10a (収穫7日前迄)
	トレボンEW 1000倍液/10a (収穫14日前迄)	ダブルカットスタークルフロアブル 1000倍液/10a (収穫14日前迄)	ダブルカットスタークルフロアブル 1000倍液/10a (収穫14日前迄)	ダブルカットスタークルフロアブル 1000倍液/10a (収穫14日前迄)
補完防除	いもち病 ブラシン粉剤DL 3kg~4kg/10a (収穫7日前迄)	いもち病 ブラシンアブル 1000倍/10a (収穫7日前迄)	ウンカ類・コブノメイガ・イナゴ類 トレボン粉剤DL 3kg~4kg/10a (収穫7日前迄)	ウンカ類・コブノメイガ・イナゴ類 トレボンEW 1000倍/10a (収穫14日前迄)
	紋枯病・稲こじ病 モンガリット粒剤 3kg~4kg/10a 散布適期出穂20日前 (収穫45日前迄)	ウンカ類・カメムシ類 スタークル粉剤DL 3kg~4kg/10a (収穫7日前迄)	ウンカ類・カメムシ類 スタークル液剤10 1000倍/10a (収穫7日前迄)	ウンカ類・カメムシ類 スタークル液剤10 1000倍/10a (収穫7日前迄)

野菜

ナスの更新剪定

家庭菜園で人気のナスも、8月には生育中盤を迎える時期となります。今回は、ナス栽培を長く楽しむための技術をご紹介します。

更新剪定の目的

ナスの収穫は早ければ6月下旬から7月上旬から始まり、7月中旬から8月上旬に収穫最盛期を迎えます。

この時期は日射量が多くて気温も高く、果実をつける側枝(主枝とは別に発生する枝)も次から次へと発生して結実を繰り返します。このことから、ナスは自分の樹も生長させながら果実を着けるため、かなりの負担がかかることとなります。

そのため収穫最盛期以降は、一時的に開花が鈍って着花(果)が少なくなる「なり疲れ」という症状が発生します。

更新剪定には、一度ナスの樹をリフレッシュして活性を高め、「秋ナス」の収穫につなげる目的があります。

更新剪定の方法

7月下旬から8月上旬にかけて、

ナスの樹は完成形を迎えます。この時期には、主枝の長さは約150~180cm程度に伸長し、主枝の葉や側枝の葉が盛んに発生し、ジャングル状態になっていることも珍しくありません。更新剪定時には、この伸長した主枝を短く切り詰めるとともに徒長した側枝をしっかりと整理し、養水分の通過をスムーズにすることで新しい茎葉の発生を促します。

更新剪定後は、通常の管理に戻します。剪定実施後、天候にもよりますが14日程度で収穫を再開することができます。

8月下旬から9月のいわゆる「秋ナス」を楽しむためにはお勧めです。

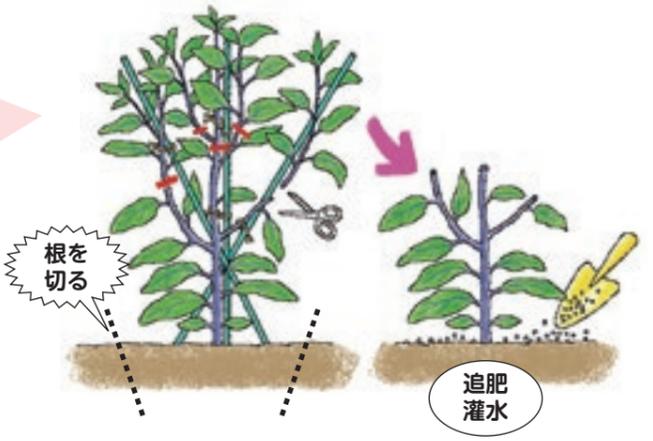
出荷販売農家の方も、主枝の摘芯や懐枝の整理をできる限り施すことで9月以降の収量増が期待できます。

病害虫防除

気温が高く、乾燥した条件が続く時期のため「チャノホコリダニ」・「アブラムシ」・「アザミウマ類」・「うどんこ病」等が主な病害虫となります。

更新剪定により風通しを良くする、樹勢を維持するとともに薬剤散布等で対策を講じてください。

更新剪定の例



主枝は伸長した長さの約半分程度まで切り詰め、主枝に近い位置に発生している側枝を4~6本程度残します。

根をリフレッシュする目的で株元から20cm程離れた場所にスコップなどを差し込み、一部の根を切断します。

その後はスコップを入れた箇所に野菜有機化成と牛ふん堆肥を混合して施し、たっぷりと灌水します。

ネギの新害虫情報

JA及び広島県西部農業技術指導所と6月に実施した令和5年産白ネギ病害虫確認巡回において、東広島市内の栽培圃場で白ネギの茎葉を激しく食害するネギハモグリバエB系統の発生が確認されました。

このハモグリバエは一般的なハモグリバエと異なり、比較的气温が高い時期(25℃以上)に発生しやすい事と、集中的に茎葉を食害するため多発すると茎葉全体が白化するなどの被害が生じます。

多発すると極端に減収するため、生産者におかれましては次の写真のような食害痕が見られる場合は、必ず防除を実施いただきますようお願いいたします。



▲ハモグリバエB系統の食害痕

▶ Information お知らせ



家の保障は万全。 でも、家財の保障は？

大型化する台風に伴い、多発する水害や土砂災害。日本各地で群発している地震。最近の自然災害では建物と同様、家財の被害も多いので、**家財の保障**にも加入されることをおすすめします。



家財の保障
(火災共済金額300万円プラン)

月々**1,194円**で
備えませんか？

〈ご契約例〉 ●共済価格:1000万円 ●修理費給付特約:なし ●共済対象:住宅内収容家財 ●家財費用共済金等不担保特約:あり ●満期共済金額:10万円 ●火災共済金額:300万円 ●口座振替掛金の適用:あり ●払込経路:口座振替 ●保障期間:30年(共済期間:10年、継続回数2回) ●構造区分:木・防火造 (令和5年4月時点)

自然災害などのとき
300万円

損害の額を**全額保障**します

地震などのとき
150万円

損害割合に応じて保障します

しかも! 10年間、共済掛金の
変更はありません。

※保障期間30年の場合(共済期間10年・継続回数2回の場合)
長期保障なので、頻繁な手続きも不要。共済掛金の
変更も継続手続きまでは変更はございません。
※継続後のご契約に適用される約款・共済掛金は、継続の時に定める約款・
共済掛金率となります。
●ご加入にあたりましては、お近くのJA(農協)へお問い合わせください。
■この資料は概要を説明したものです。ご検討にあたっては、「重要事項説明書
(契約概要)」を必ずご覧ください。また、ご契約の際には、「重要事項説明書(注
意喚起情報)」および「ご契約のしおり・約款」を必ずご覧ください。
【2334990081】



JA共済は令和4年4月から**共済掛金を引き下げ、**
さらにご加入しやすくなりました!

建物再生共済



広島中央農機センター移転のお知らせ

広島中央農機センターは8月18日(金)に、造賀(高屋ライスセンター)へ移転します。

移転にともない住所・電話番号が変更になります。
ご迷惑をお掛けしますが、よろしくお願ひします。

【新住所】東広島市高屋町造賀6659-4

【フリーダイヤル】0120-162-315

※7月1日からご利用になれます

※携帯電話からもOK

【TEL】082-430-2300

【FAX】082-436-1600

問 広島中央農機センター フリーダイヤル 0120-162-315

東広島市
園芸センターより

展示圃場の作物をご紹介します

8月は、秋冬野菜の準備の時期となります。園芸センターの展示圃場で展示栽培している作物を紹介します。

ビニールハウスでは

- ・抑制キュウリの環境制御栽培
- ・ハウレンソウの品種比較栽培
- ・ミニトマトの横誘引栽培



露地では

- ・抑制カボチャの冬至向け栽培
- ・春ネギの品種比較栽培
- ・ニンジンの11月収穫栽培
- ・キャベツの3~4月収穫栽培

その他の作物についても、有望品種の比較展示栽培を行なっています。ぜひご来場いただいて、栽培の様子も併せてご覧ください。



申込・問い合わせ

東広島市園芸センター Tel 082-433-4411